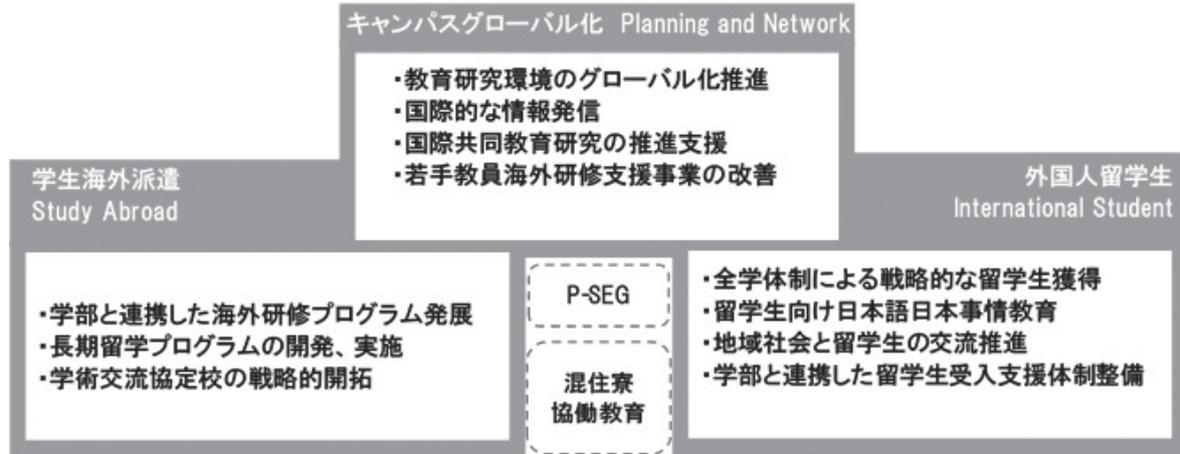


グローバルセンター

令和2年度 グローバルセンター活動報告

I. グローバルセンター概要

● 3部門概要



● 教員

CPグローバル化 Planning and Network		センター長 畝田谷 桂子		学生海外派遣 Study Abroad		外国人留学生 International Student	
教授	中谷 純江	教授	畝田谷 桂子	教授	和田 礼子	特任講師	市島 佑起子
特任講師	福富 渉 (～2020.6) 難波 美芸 (2021.1～)	特任准教授	森田 豊子	講師			
世界展開力事業 Inter-University Exchange Project							
特任助教	MARMOLEJO RAFAEL						

II. 令和2年度の活動内容

1. 令和2年度グローバルセンター運営委員会

(1) 主な審議事項

A. 教務・教育プログラム運営

大学の世界展開力強化事業／日本語・日本文化研修留学生プログラム

Study Japan Program 開設科目と修了要件（前後期）／修了認定（前後期）／協定締結

B. 学生受入・派遣

鹿大「進取の精神」支援基金事業（留学生受入推進事業の募集・選考等）

鹿大「進取の精神」支援基金事業（留学生受入推進事業の実施延期）

C. 雇用・管理

特任教員選考委員会設置・選考申合せ決定／特任教員の補充・雇用継続／令和元年度決算
令和2年度予算／鹿大「進取の精神」支援基金予算／令和2年度・3年度非常勤講師雇用計画

新型コロナウイルス感染症対応

(2) 開催日程

*はメール会議

回数	1*	2	3*	4*	5*	6*	7*	8	9*	10*
日程 (始)	令和2年									
(至)	4/2 4/3	4/7	4/17 4/21	5/1 5/7	5/21 5/25	6/17 6/19	7/28 7/30	9/15	9/18 9/23	10/19
回数	11*	12*	13	14*	15*	16*				
日程 (始)	令和2年		令和3年							
(至)	11/17 11/19	12/16 12/18	1/27	2/17 2/19	2/25 3/1	3/25 3/29				

2. 令和2年度グローバルセンター教育関連事業（概要報告）

本節では、グローバルセンターが実施している事業の中から、特に学生教育を中心に概要を報告する。

(1) 学生海外派遣

(1a) 日本人学生の海外派遣実績

コロナ禍に見舞われた令和2年度は、以下の通り全ての派遣事業で実渡航は実施できなかった。

- ・鹿児島大学学生海外研修→全面中止
- ・鹿児島大学学生協定校派遣留学→中止（希望者は年度を超えて延期）
- ・トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム
→第11、12期生の希望者は渡航延期、第13期生は選考途中で選考中止
- ・鹿大「進取の精神」支援基金事業による学生海外派遣事業（長期派遣）
→希望者は渡航延期
- ・鹿児島県清華大留学支援奨学金奨学生事業→中止
- ・パース市英語イマージョンプログラム PUPILS →中止
- ・鹿児島大学 21 世紀版薩摩藩英国留学生派遣事業「UCL 稲盛 留学生」→中止

この状況下で、「進取の精神グローバル人材育成プログラム（P-SEG）」を継続し、全学の海外研修や派遣留学等の学習機会についてロードマップによって学生に一体的な提示を行い、P-SEG 説明会、海外研修報告会、SNS 等による情報提供や啓発活動を継続し、新たに P-SEG 海外研修・留学啓発用パンフレットを2種作成して、学生の海外活動への興味やモチベーションを保った。Intensive English をオンライン開講し（10回/学期：5回以上受講した登録者135名）、TOEFL 模擬試験（85名参加）もオンライン開催した。また、鹿児島市ホームページにグローバルセンターホームページとのリンクを設けて姉妹都市パースとの高等教育における交流について発信した。

さらに、大学の世界展開力強化事業開始3年度目の知見と実績を活かして、実渡航の代替として全学規模でオンライン国際協働学習（COIL）を強化拡大し、以下のとおり受講生数が目標値を大幅に上回った。下表のうち、グローバルセンター教員が、本学学生60名、海外連携校学生116名を担当した。

本事業による COIL 受講生数 (21科目)

数値目標となっている項目		令和2年度	令和2年度
		目標値	実績値
COIL 受講生数	本学学生数	133 名	245 名
	海外連携校学生数	179 名	298 名

このほかに、本事業の海外連携校以外とも COIL を実施した（本学学生14名、外国人学生90名受講。このうちグローバルセンター教員担当50名）。加えて、新たに COIL 以外のオンラインによる国際教育として、海外5大学で本学学生向けに「Virtual Exchange Program」（約1～5週間の集中講義）を開発し、本学授業として実施した（7科目、本学学生64名、外国人学生15名参加。このうち2大学3科目をグローバルセンター教員が担当）。また、この授業料補助のため、グローバルセンター長が委員長を務める学生海外研修支援事業選考委員会で「オンライン海外研修支援事業」を創設し、27名を支援した。

このほか、国内他大学学生と海外大学講義を受講した科目（本学学生5名受講）があり、これら全てを含めると、渡航停止の海外研修の代替として、「オンラインによる国際教育」が全学で合計32科目実施され、本学学生365名と外国人学生412名に国際教育の機会を提供した。上述の通り、この多くの部分を、グローバルセンター教員が担った。

最後に、独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）海外留学支援制度（協定派遣）の令和3年度採択数は、大学全体で9プログラム（うち5プログラムはグローバルセンター教員の応募プログラム）232名となり、令和2年度比30名の支援者数増となった。（令和2年度採択数：9プログラム 202名¹は、全研修中止。うち6プログラムはグローバルセンター教員の応募プログラム。令和元年度採択数：7プログラム176名は支援済）。

(1b) 海外留学啓発活動、指導

令和元年度の留学・海外研修帰国生に対する事後学習科目、報告会、令和2年度以降の渡航再開に備えた説明会、令和3年度海外研修及び派遣留学候補生選考を行った（説明会と報告会：総計890名参加。派遣留学説明会とトビタテ!留学JAPAN説明会各2回）。また、個別留学相談（22名参加）を実施した他、循環型留学啓発教育では、オンラインで留学体験発表と後輩への啓発を目的とする「伝えよう！私の海外体験」を1回実施した。また、留学帰国生による、学生海外派遣部門ホームページの留学体験談サイト「伝えよう！鹿大生の海外体験」への報告と留学情報を記入するファクトシートの掲載も継続して行った。海外渡航に関する大学の方針「国際交流事業に関する実施条件対応表」作成に関与し、大学を通じた派遣生のみならず、私費渡航を計画している学生の渡航管理、指導を年間を通して行った。

(2) 日本人、留学生の協働学習

外国人留学生と日本人学生の協働学習を行うグローバルランゲージスペースの活動とし

¹ 後日追加採択の30名除く

て、昼休みの活動（外国語 Speaking Lunch Table）は、コロナ禍のため年間を通して中止、週1回、固定グループで学期に10回学習する「グロスペ外国語」は、前期は中止、後期はオンラインで実施した（後期61名登録：英、中、韓、マレー語）。例年通り、グロスペ外国語に対して参加者の報告コメントから、意義を認める回答が多数得られた。

(3) 外国人留学生受入

(3a) 外国人留学生受入状況、教育体制

外国人留学生対象「Study Japan Program」は、4月より全面オンラインで開講した。開講に先立ち、Zoomを利用した遠隔授業の開始に向けて、非常勤講師及び担当職員を対象とした研修を実施し、体制を整えた。また留学生に対しては、プレースメントテスト受験、履修登録、履修相談がオンライン上で行えるよう整備し、英両言語での連絡体制を強化した。さらに、このような状況下でも留学生が多様な科目を受講できるよう、開講時間・開講科目等の調整を行った。外国人の入国が規制され、新規受入留学生数が大幅に減少した中の開講となったが、年間受講者総数は延べ200名であった。

平成29年度より継続の鹿大「進取の精神」支援基金留学生受入推進事業では、「研究留学生受入プログラム」にて4名を採用し、年度内に渡航が可能となった1名を受け入れた。同事業の「鹿児島日本語・日本文化研修プログラム」は2名を採用したものの、渡航制限により翌年度に延期となった。

さらに、前年度より継続の共通教育改革に合わせ、外国人留学生必修科目である日本語、日本事情科目を再構築した。新規学部留学生23名の内12名は、年度当初より自国から遠隔で授業履修を行う事となった。学内関係部署と連携し、未入国学生を含む新規学部留学生を対象に、遠隔授業による学習の問題やコロナ禍における生活不安等について、オンラインでの相談指導を重点的に行った。

(3b) 外国人留学生受入体制の充実

外国人留学生への経済的支援として、鹿大「進取の精神」支援基金留学生受入推進事業の「研究留学生受入プログラム」にて1名を支援した。また同事業により、年度内の入国が可能となった外国人留学生26名に対して、入国後の隔離費用及び空港所在地から鹿児島までの移動費用の一部を助成した。さらに、大学独自の奨学金として「留学生後援会奨学金（14名）」「種村完司奨学金（10名）」、「外国人留学生民間宿舍費助成事業（32名）」を継続して給付した。加えて新規留学生獲得のため、日本語学校で本学独自の進学説明会2件を主催し、他機関主催の進学説明会にも1件参加した。外国人留学生をサポートする「留学生受け入れサポートデスク」については、スタッフの募集、選考を行ったが、コロナ禍で活動は中止となった。

(4) 学生教職員への国際的な情報の発信

海外渡航のみならず、学内の交流も絶たれた学生に向けて、コロナ禍においても先を見据え、世界に目を向けて学習を継続する高い意欲を持ち続けられるよう、グローバルな視点やマインド、コミュニケーション能力の育成を図ることを目的に、2種類の冊子「未来は誰がつくる 視点をグローバルに」と、「セカイを変えよう P-SEG Interactive」を編集し、10月

と3月に発行するとともに、グローバルセンターのWebサイトからも必要情報が得られるように整えた。

(5) 国際共同教育研究の推進支援

コロナ禍により、2020年度派遣予定だった「鹿児島大学若手教員海外研修支援事業」教員3名（うち2名は「鹿大『進取の精神』支援基金若手研究者支援事業」による支援）は、2021年度に派遣を延期した。

(6) 2018年度採択 文部科学省大学の世界展開力強化事業「米国から鹿児島、そしてアジアへー多極化時代の三極連携プログラム」

グローバルセンターは、大学の世界展開力強化事業（以下「本事業」）を統括、担当している。令和2年度は、文部科学省により定められた同事業プログラム委員会による中間評価を受審し、総括評価Aを得た。また、本学が組織した外部評価委員会において、総括評価Sを得た。加えて、本事業の食と健康コースを運営している農林水産学研究科と、その連携校である中国湖南農業大学がダブルディグリープログラム協定を締結するとともに、当該コースの米国連携校であるノースダコタ州立大学と農学部がプログラム協定締結に合意し、調印過程にある。また、「大学の世界展開力強化事業オンラインシンポジウム『COVID-19禍の世界』閉ざされる境、つながる技術、共に創る未来」を開催し、連携校教員と学生を含む国内外約180名の参加登録者を得た。加えて、コロナ禍で実施できない派遣、受入の代替として、オンライン国際協働学習（COIL）を強化し、受講者数は目標値を大幅に上回った（本学学生受講者数245名：目標値153名、外国人学生受講者数298名：目標値199名）。さらに、コロナ後の派遣、受入の補完ともなる新たな国際教育手法 COIL の質の向上のため、動画教材等の新規作成や事業終了後も視野に入れた異分野連携構想に着手するとともに、本事業ホームページに外部評価報告書、及びシンポジウムや各コースの報告等を掲載し、鳥嶼へき地医療コースの和文と英文による成果報告を関西大学刊行 I-PAPER Vol.6, March 2021, IIEG に寄稿して、国内外への成果発信に貢献した。併せて、国際教育の効果測定のため、BEVI (Beliefs, Events, and Values Inventory) の試用を開始した。

(7) 鹿大「進取の精神」支援基金事業

寄附金を原資とする同基金事業の実施報告として、「鹿大『進取の精神』支援基金 学生海外派遣事業 留学生受入推進事業 若手研究者支援事業 令和元年度事業報告書」を令和2年6月に刊行し、同基金を支援する目的で設立された鹿児島大学「鹿大『進取の精神』支援基金」支援会役員をはじめ関係各団体、企業に贈呈した。同事業による派遣は、教員、学生とも全て延期、受入は、令和3年1月に研究留学生1名が入国し、6月まで本学で研究を行った。

以上

